

平成 26 年 11 月 21 日

国立大学リハビリテーション協議会 会員の皆様

学術部長 山梨大学 八木野孝義

## 学術部からのお知らせ 第 2 報

学術部からのお知らせ第 1 報では今後学会誌についてグレードアップを考えており学術部内に学術検討委員会を立ち上げたことをお伝えしました。またそこで検討した議題を協議会ホームページに更新していくので会員の皆様には是非とも協議会ホームページへアクセスしていただくようお願いをしました。

学術誌のグレードアップとして具体的に「学術誌編集委員会の設立」「査読制の導入」を検討しております。

### ・学術誌編集委員会の設立

学術編集委員会の業務は会誌の編集企画、投稿規定の検討、投稿論文の掲載可否の審査、学術誌の発行等を考えております。現在学会誌は学会当番施設が学会発表後に発表者から学術大会誌の原稿を送ってもらい編集発行しております。今回、学術誌編集委員会を設立することで学会当番施設の負担軽減が図れ、委員会で編集業務に専念できることでトピックス的な原稿依頼や継続的な特集などの企画が可能となります。

### ・査読制導入

また編集委員会の設立に伴い査読制を導入することで雑誌自体の質の担保がはかれ論文投稿者も査読論文として業績としての価値があがります。

現在、学術部では編集委員選出の作業を行っており学術検討委員会や理事会で検討協議し会員の皆様に報告していきます。

また、今年の学会から新しい試みとして演者へ査読のフィードバックを行いました。かねてから査読コメントについては演者に有益と思われるコメントがありフィードバックすべきか議論されたことがありました。今回学会開催していただいた群馬大学のご協力もあり査読者の了解のもと査読のフィードバックを行いました。学会終了時に演者の皆様に今回の試みはどうであったかアンケート調査を行いました。その結果は概ね好評でありましたがいくつか改善すべき問題点もあり、今後は次期学会担当施設の東京大学のスタッフ、学術部検討委員会で相談しながら来年度に向け対応していきます。